
バトルスピリッツ 冥王の死闘

黒川 業

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バトルスピリッツ 冥王の死闘

【Nコード】

N3333Z

【作者名】

黒川 業

【あらすじ】

神々の砲台の引き金となり、命を散らせたダンがついたのは死後の世界『冥界』。現世同様、バトルスピリッツで全て決まりバトルスピリッツの実力次第では、現世に生き返る事ができる。ダンは自分の願いを胸に秘め、冥界で死闘を繰り広げる。

1話 初戦（前書き）

初めまして、黒川業と申します。二次創作、バトスピやってみたぜ
！！

1話 初戦

馬神弾は死んだ。西暦二千六百三十一年、八月三十一日に。享年十六歳、自らを神々の砲台の贄として捧げ地球リセットを防ぎ世界を救ったのだ。その後、世界が一つに纏まって復興の道を歩んでいる事など当の本人には永遠に知る由の無いものだ。

「俺は、皆を守れたのかな・・・？」

少年の声が、どこか冴えないように響き渡る。その声を聞いて、一人の青年が声の主に近づいた。

「お、これはこれは。英雄『馬神弾』じゃないですか！・・・あつ、自分の名前とか解ります？何せココは、死後の世界『冥界』なんですから」

「死後の、世界だつて？」

そう、ダンには死んで冥界に現れたのだ。目の前には、無数の花が咲き誇り心地よい風が吹く。天国という場所を体現したような世界である。

青年はポケットからバトルスピリッツのデッキを取り出し、ダンに見せた。

「この冥界でも、現世と同じく全てはバトルスピリッツで決まります。折角だ、この世界のルールをバトルスピリッツを通して教えて差し上げましょう」

「待ってくれ、俺にはデッキが・・・あれ？」

ダンの手元にはデッキがあつた。ダンはそれが本物で、自分の物かどうか確かめる。

「俺のデッキだ・・・」

「では・・・。ゲートオープン、界放」

バトルスピリッツお馴染の掛け声と共に、二人はバトルフィールドに誘われた。ダンは何か違和感を感じている。

自分の手札に、知っているカードが一つもないのだ。

「どうなってるんだ？さつき確かめた時は確かに、俺のデッキだったのに・・・！」

ダンは無言のまま顔を隠さない。その表情を見た青年は口を開いた。

「この世界は常に進化し続けるんですよ。デッキは自分の記憶データをベースに、最新のブースターパックのカードで構成されているんです。スタイルはそんなに変える必要が無いから、やり辛さは感じられないと思うんですけどね」

第1ターン、青年は青のスピリット『バズーカゴレム』を召喚。召喚時の効果で、ダンのデッキを上から四枚破棄した。

「青が主体のデッキか、スタートステップ！コアステップ、ドローステップ。『バクリユール』、『ブラックケイオス』を召喚。アタックステップ！」

ダンは青年のライフを一つ減らし、ターンを終える。そして『ブラックケイオス』は自身の効果で、BPを1000アップした。

「メインステップ、『バッドハンマー』をレベル2で召喚。更に、『ネクスス』『魔法石の城』を配置。このままアタックステップ、ネクススの効果発動！」

ネクスス『魔法石の城』レベル1の効果は、自分のアタックステップ開始時にシンボルを一つ宣言する。そのシンボルの自分のスピリットがアタックした時、相手はデッキを2枚破棄しなければならぬ。これにより、『バッドハンマー』の『粉碎』と合わせて再びデッキから、4枚のカードが地に堕ちた。

「ライフで受ける！」

その後、実に10ターンの膠着が続いた。先に動いたのは、ダンだ。

「太陽を司る神、神々しき光で邪悪を祓え！『太陽神龍王カイザー・アポロドラゴン』、レベル2で召喚！」

「おお、太陽の神！来なさい、その一撃を受け止めてあげましょう！」

『太陽神龍王カイザー・アポロドラゴン』のレベル2、3の効果、相手の場のスピリットが2体以上存在する時は2回のアタックが可能なのだ。

「アタックステップ、『太陽神龍王カイザー・アポロドラゴン』で『バズーカゴレム』を指定アタック！更にフラッシュタイミング、『カイザー・インパクト』を使用」

マジック『カイザー・インパクト』はカイザー・アポロドラゴンが場にいる場合のみで使用可能なマジック。その効果は、カイザー・アポロドラゴンが破壊した相手スピリットと同じシンボルを持つ相手スピリットを全て破壊する。尚、相手スピリットはこの破壊で『破壊時に発動する効果』を使用できない。

「既に積んでいましたか、フラッシュタイミング！」

青年がダンのマジックに対抗して、青マジック『ハード・ダイナマイト』を使用した。フラッシュの効果で、ダンの『カイザー・インパクト』を無効にして破壊する事に成功した。

「もう一度アタックだ！今度は『金剛のダイヤモンド・ゴレム』を指定アタック！」

「くっ、『粉碎』を持つスピリットを潰してきましたね・・・」

青年のターン、青年はバトルを中断しダンにこの冥界について語り始めた。

「最初に言っておくと、貴方と私はまだ『完全に』は死んでいません。『完全に死ぬ』という事は、この世界でバトルスピリッツの勝利数が0を下回るという事です。私は今、13勝しています。でも貴方は初めてで、0勝。負ければ消えます。そしてこの『清冥界』と『濁冥界』で20勝ずつすれば、現世に生き返る事が叶います。そう、二度目の生を受ける事ができるのです」

「随分勝ってるんだなアンタ。それでも20勝いかないという事は・・・」

「この冥界のカードバトラー達は皆、強豪なのだ。」

「私は家族に会いたい、そして償いたい」

「え・・・？」

青年の眩きが終わった後、青年の場に『超破壊巨帝ジェノサイド・ゴレム』が召喚されていた。

「アタックステップ！ジェノサイド・ゴレムでアタック！このスピリットのみが持つ力、『狂襲』を発動！」

『狂襲』、それは『超破壊巨帝ジェノサイド・ゴレム』のみが持つ能力。自分の場のネクサスを疲労させる事で回復できるうえに、このスピリットのアタック時、相手のカード効果をこのスピリットは一切受け付けないのだ。

「ライフで受ける！！」

「ジェノサイド・ゴレムはダブルシンボル、ライフ2つもらいます」
ダンのライフは残り2つ、『狂襲』による回復でジェノサイド・ゴレムのアタックを再び受ければ敗北する。つまり『完全な死』が訪れてしまう。

「これで終わりです！！」

「フラッシュタイミング、マジック『ファイナル・カノン』を使用！自分のライフ1つをコストに自分の手札にある2枚のブレイヴを、自分フィールド上のスピリット2体までにブレイヴさせる！」

ダンの起死回生のカード、『ファイナル・カノン』。この効果で手札の『ツインブレード』、『鋼虫シルバーシザース』をダブルブレイヴさせた。ジェノサイド・ゴレムのBP15000に対し、ダブルブレイヴスピリットのBP19000。逆転である。

ダンのバトルフォームが黒く染まる。生前に持っていた、場の圧倒的支配力が形として現れていた。

「ダブルブレイヴスピリットでブロック！！」

ジェノサイド・ゴレムは、太陽の業火に散った。

「ターン、エンドです・・・」

ダンのターン、ダブルブレイヴスピリットのアタックが決まれば勝利が決まる。

しかし、ダンは迷っていた。

「どうしました？早く終わらせましょう、この戦いを」

「オレは、アンタみたいな人まで踏み台にして勝ちたくない・・・」
ダンは一タックできない、自分の罪に自ら向き合い償おうとしている目の前の男に。まるで、鏡に写った自分を壊すような感じがしてしまっから。

その言葉の直後、青年は声を荒げた。

「何だその態度は！！その言葉は、この冥界全てのカードバトルを侮辱する言葉だぞ！！皆、貴方も生前に未練を残して散った。貴方も、未練があり願いがあんなら！！ココで勝たなければ願いの意味は無くなる！！さあ、貴方の願いを高らかに叫びなさい！！そして勝つのです！！」

「オレは！皆と穏やかに生きてかった、でも、苦しんでいる人を他所にのうのと過ごす事ができなかった！！だから戦った、そして勝ってきた。まったく、自分でもおかしな人生だつて笑っちゃうよ。頼まれたら断れない、勝つ以外の道知らない。だから！今度こそ『皆と笑い合いながら生きる』道を勝ち取るんだ！！」

「よく言いました！この3つのライフ、全てくれてやりますよ！！」
ダンは青年に勝利した。

青年は遅すぎる自己紹介をした。名前はアマギ、生前は世界大会優勝経験もある程のカードバトルだったそうだ。しかし不慮の事故により、即死。女手一つで育ててくれた母親に何一つ恩を返せず死んでしまったのだ。

「ダンくん、これを見て下さい。私の勝利数は13から12に減りました。そしてこれはダンくんの。0から1に増えています」

「あ、ホントだ」

二人は意気投合し、冥界を進んでいく。次はどんなバトルになるのだろうか！？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3333z/>

バトルスピリッツ 冥王の死闘

2011年12月11日15時51分発行